



2学期 木工体験学習プログラム始まる

西浜小3・4年生、大石小3年生を皮切りに2学期の木工の学習が始まりました。2学期は、3年生が中心になっています。教科書に基づいた学習内容です。



3年生は、「えんぴつ立て」を作ります。はじめに、玄のうを使って自分のイニシャルを1本1本くぎで打っていきます。続いて園長さんが鉛筆を立てる穴をドリルで開けて、台をつけてくださいます。最後に、木の実などをグルーガンで飾りつけます。はじめはくぎを打つ音が「ガチッ、ガチッ」という感じで、玄のうの



面が釘の頭に水平に当たらない音でしたが、徐々に「トン、トン」といい音がしてきて、リズムカルになってきました。音を聞いていると上手になっているのがわかります。音では4年生ののこぎりも同じで、刃がまっすぐでないため「キーツ、キーツ」という音だったものが、上手になり「ギーコ、ギーコ」と聞こえてきます。飾りつけは自然味あふれる物がたくさんあるので、子どもたちは楽しみながら様々に飾りつけます。どれも、個性豊かですばらしい作品が仕上がりました。



3年生はさらに木の枝を切り出しナイフで切って鉛筆を作ります。40、50年前までは、皆自分のナイフを持っていて、自分で鉛筆を削っていましたが、今ではナイフを使うことは全くと言っていいほどないので大苦戦です。しかし、名人の館長さんが「切り出しナイフは切るというより押すようにしていくのがコツです。」と教えてくださったとおりと、よく切れるようになりました。普段できない貴重な経験でした。



このような素晴らしい体験ができるのも、豊富な材料ばかりではなく渡辺園長さんや教員OBの先生方（希代修先生、倉沢正徳先生、古屋庄一先生、渡辺正利先生）の丁寧な指導によるものです。本当にありがたいことです。OBの先生方は、体験学習プログラムとして実施した当初から、指導に関わってくださっていて、教員としての経験に加え、生活の知恵が随所に現れています。的確なアドバイスと工具の使い方の指導により、子どもたちは、苦労しながらも作り上げていく楽しさを感じながら作品を作っています。



町バスに感謝

校外学習にとどまらず、教育課程にある工場などの見学、総合的な学習における校外での学習、さらに、複数校による交流活動やセンターが行っている体験プログラム学習など様々なことに利用するバスは町の経費で手配されています。